

6 社会福祉法人が共同研修

相互訪問で課題検証

自分自身の強みを再発見

法人の垣根を越えて、次世代の介護職員を育成しようと、特別養護老人ホームなどを運営する小田原福祉会（小田原市）、愛川舜寿会（愛川町）など関東の6社会福祉法人による共同研修「Draw Up! 研修」が9月から11月にかけて行われた。20代から40代の職員30人が宿泊研修や施設の相互訪問を行う画期的なプログラム。研修を終えた参加者は「他法人の良い所を明日からでも取り入れたい」「普段は意識していなかった自らの法人と自分自身の強みを知った」などと語り、介護への意欲を新たにしていた。

（熊谷 和夫）

研修は2015年、小田原福祉会、合掌苑（東京都町田市）、福祉楽団（千葉県）の3法人でスタートした。小田原福祉会は、日本で初めて介護食を開発したことでも知られるなど、3法人とも強い特色を持った地域を代表する法人だ。

ただ、介護職員の離職の問題などは共通課題。研修は、これから法人の中核になる中間管理職や次期リーダー候補の職員

が、法人の垣根を越えて交流して知見を深め、職員へのサポート体制や人事システムの整備、法人・施設の課題解決などへのアイデアを得ようという試みだ。また、参加した職員一人一人も、自身の強み、課題を確認し、職場のリーダーとして成長の機会としてもらう。

プログラムは、リクルートマネジメントソリューションズの助力も得て、3法人が共同して練り上げた。間を置きながら、1泊2日の宿泊研修、法人混成のグループに分かれての相互訪問、再び1泊2日の宿泊研修を行う。中でも相互訪問は、各法人の「自信」を背景に、全てをオープンにして法人・施設を紹介

介し合う果敢な取り組みとなっている。過去2回の研修は評判を呼び、今年は愛川舜寿会、生活クラブ風の村（千葉県）、しんまち元気村（群馬県）の3社会福祉法人も加わった。

今年の研修は11月24日が最終日。6法人ごとに、自らの法人・施設の特徴、持ち味、課題を発表した。前日には、法人混成グループごとに相互訪問を振り返り、率直に問題点を指摘し合っていた。各法人からは率直な検証が語られた。

一方、現状への不満から隣の芝生が青く見えやすい中、自らの法人、施設の強みを再発見することにもなった。「幅広く職種があり、研修も充実している」「あいさつ、言葉遣いには気を付けていたが、それが認められた」「地域密着、多世代交流が強み」「行動力、団結力、発信力がある」「良いと思うことを取り入れる柔軟性がある」「託児所があり、産休、育休が充実しているメリットを感じた」などと、自らの職場への愛着と誇りが語られた。

最後に参加者は、それぞれの個人的な課題や明日からの計画を発表し、各グループのメンバー同士でアドバイスや激励のメッセージも交換した。「もはやしていた中で、一筋の光が見えた」「職場に取り入れられることが多くあり、わくわくしている」。参加者は新たな視点や元気を得たと、口々に述べた。



他法人の職員からの指摘を受け、自らの法人・施設の強み、課題を発表する参加者
＝国民生活センター相模原研修所

小田原福祉会・人財育成センターの井口健一郎センター長は「過去の修了者はたくましく、各法人を支えるポジションを担ってくれている。この研修が、介護福祉リーダーの教育に一石を投じられることを願っている」と、手応えを語っていた。